



手を差し伸ばせ、解脱は我が前にあり。眼前にあり。(ご聖訓第六巻 18頁)

御寺泉涌寺・解脱金剛尊者孟蘭盆法要

コロナ禍、泉山の格別のご厚情に感謝して



妙応殿にて営まれた解脱金剛孟蘭盆法要。焼香に立たれる岡野理事長



写真左=ご挨拶される上村長老猊下
 写真左下=解脱金剛宝塔外陣にて聖靈齋祀簿御安置の儀。参列者一同で般若心経を厳修
 写真右下=このたび御安置された長老さまの聖靈齋祀簿。謹製にあつたのは御寺泉涌寺と縁の深い大仏師・辻井豊氏(京都洛央支部会員)



九州・西日本を中心に大雨に見舞われた8月13日、小雨降り注ぐ京都・御寺泉涌寺にて解脱金剛尊者孟蘭盆法要が行われた。昨年同様、コロナ禍を配慮し参列人数が制限される中、岡野英夫理事長はじめ本部役員、地元関西圏域役員及び京都教区支部長ら、20余名が参列した。
 午前11時、霊明殿にて、皇祖皇霊に対して藤原博内務局長の先達により参加者一同で般若心経を念唱した。その後、妙応殿へ移動し、上村貞郎長老猊下を導

師に山内職衆による御法要が厳かに営まれた。岡野理事長を筆頭に、順に焼香した後、田中英次京都教区長の先達により全員で勤行を行った。
 ご挨拶にて上村長老猊下は、感染症が流行する中、本日参集の方々へ喜びを述べられると共に、コロナの一日も早い収束を祈念された。最後に岡野理事長は、前方に設けられた御祭壇に、海会堂から移された金剛さまの御尊牌と共に、宝塔外陣齋祀精霊の名簿があることを紹介さ

れ、「本日は泉山より、解脱金剛さまと解脱会員各家の御回向を合わせてしていただいた。どれほどの光栄に浴しているか、会員として忘れてはならないと心新たにした」と述べられた。
 また同日、平成31年に霊界入りされた岡野聖法長老さまのご霊名と役歴が記された「聖靈齋祀簿」が、関西道場にて御法楽を行った後、解脱金剛宝塔外陣に御安置された。

各直轄道場・孟蘭盆会

真心からの感謝を捧げる



孟蘭盆法要が本部道場では7月15日、御霊地と各直轄道場では8月15日、それぞれ感謝日行事に先立って執り行われた。
 本部道場では午後1時より、藤原博内務局長が導師となり、御神前右に設けられた祭壇に向かい、開教以来先亡者精霊、会員各家祖先代々之精霊、各種戦役戦没者精霊、法界無縁萬霊、支部長以上の今年度新盆特別法要精霊 = 右記参照 = に対し、懺悔文、般若心経を唱え、先人先覚者へ感謝の天茶供養を捧げた。

令和3年 新盆特別法要精霊 (敬称略)

- | | | |
|-------|-------|---------------|
| 皆川 朋子 | 名古屋高蔵 | 理事・支部長 |
| 土屋 瑞夫 | 宮城松山 | 参与・元教区長・支部長 |
| 島元 晟光 | 東久留米 | 参与・元教区長・名誉支部長 |
| 石田 正義 | 千住河原 | 参与・元教区長・支部長 |
| 熊田 昭 | 埼玉北本宿 | 参与 |
| 樋口 勉 | 名古屋町北 | 教区長・支部長 |
| 梶原 正代 | 牛込 | 名誉支部長 |
| 岩田 宏之 | 小岩 | 名誉支部長 |
| 鈴木 盛一 | 下馬 | 名誉支部長 |
| 土屋 富男 | 竜泉 | 名誉支部長 |
| 三和 テル | 大阪瓦屋町 | 名誉支部長 |
| 熊谷 詔夫 | 小樽中央 | 支部長 |
| 小林 一雄 | 長野岩村田 | 元支部長 |
| 本間 一郎 | ※岩内 | 元支部長 |

※ 閉止された支部

十和田支部・第6回八甲田山雪中軍殉難者供養祭

靈魂と共に一人ひとり努力を

好天に恵まれた7月4日、十和田支部では桜木の緑かがやく青森県青森市幸畑墓苑内にある雪中行軍慰霊碑前にて、地元で活動する「雪中行軍語り継ぐ会」の方々を来賓に迎え第6回八甲田雪中行軍殉難者供養祭を開催、十和田支部会員をはじめ、本部の福澤文雄教区担当、菅原弘樹東北第1教区長、仙台岩切支部11名、釜石大町支部4名が参加した。

この碑は、明治35年1月に旧日本陸軍第8師団の歩兵第5連隊が八甲田山で

の雪中行軍訓練中に遭難し210名中199名が死亡したという痛ましい事故を偲んで建てられたもの。

供養祭は安江敏参与が回向文を奏上後、靈魂の無念を思い、真心からの供養を厳修、中には殉難者の一人ひとり名前を挙げながら供養する参加者もあった。

最後の挨拶の中で、十和田支部の中屋敷もみ子支部長は、子孫の明るい未来のために靈魂と共に時代に合わせて一人一人が努力してゆくことを誓った。



供養祭では天茶に輝く墓石の俗名に見入る一般来訪者の姿や、開催前に受付所を用意し、終了後は温かい笑顔で労いの言葉を参加者にかける資料館の職員の姿も見られ、そうした様子から天茶供養を心持ちにしていた靈魂が満足されていると実感を得て参加者は帰路に就いた。

東京第4教区・仲介者研修

コロナ禍の修業 意識の統一を図る

東京第4教区では7月25日、教区仲介者研修を行い、計23名が参加した。

当日は緊急事態宣言を受けて、メイン会場の解脱会本部では三密を避けた会場設営を行い、また自宅などからのリモートによる参加など感染予防の配慮がなさ

れた。

研修では、6月の本部主催修法担当者研修で学んだ「仲介手順の変更点」「御修業時のコロナ対策」についての報告に基づいて意識の統一が図られ、また修法事例シートの神関係の学びを深めた。



コロナ禍が収束し各支部の活動が徐々に戻っていくことを願いつつ、後半に向けての良いスタートの研修となった。

解脱金剛奉賛会 設立50年企画 奉賛会体験

夫が突然、「お酒代を奉賛会費に」と宣言

新潟葛塚支部 遠山 春美



夫の強い覚悟と真心により奉賛会員になった私ですが、当初は夫の言葉を信用せずに入会を拒否していました。

今年2月上旬、すでに奉賛会員だった夫から「酒量を減らすから、君も奉賛会に入会させてもらおう」と勧められた私は、返事をせず夫の真心をはねのけました。すると、夫は支部感謝会で皆さんの前で「妻を奉賛会員とするため、私はお酒を減らし会費を出します」と誓い、支部長や周囲の勧めもあって私も入会したのです。

夫とは31年前に職場結婚をしました。夫が解脱会員のお蔭で法縁を得、しかも夫は婿養子に入ってくれたので次代へ命をつなげられたわが家でしたが、なぜか私は夫へ感謝の心が持てず、また結婚当時から夫に対して素直になれず、言いたいことも言わずに口を閉

ざしていました。そんな私に不満を感じたのか、毎晩、夫が飲むお酒の量は大変なものでした。しかし私は夫の体の心配よりも、自分可愛さで夫の機嫌を損ねないように見ぬふりをしていたのです。

そんな私の心遣いが、体を通してご注意という形で表れました。結婚後、動悸が激しくなり不整脈の発作を起こすようになり、時に腰痛の激痛で寝込んでしまうこともありました。

支部長はそんな私たちの体を常に心配してくださり、私の生い立ちを振り返るようにご指導くださいました。

二人の娘を残して若くして先妻を亡くした父と再婚した母に連れられて、私は6歳の時に養女へ入りました。血のつながらない私を父も姉二人もとても可愛がってください、本当の家族のように育ちました。しかし父たちの気遣いに心を向けず、家庭の幸せを当然と受け止めていたのです。同様に、夫が私を幸せにす

るのは当然だと身勝手に考え、養子に入った夫の寂しさや辛さを考えてこなかったことに気づいたのです。

支部長からご指導を頂き、その月から夫の生家の先祖と両親、夫の産土様へ13ヵ月間、夫の生命への感謝を捧げる月参りをしました。そこでやっと、夫の有り難さに気づいたのです。この気持ちを忘れないために、今は毎月、夫婦で茶話会をしています。

夫が宣言した支部感謝会の夜、「結婚式のやり直しをしよう」と夫が言い、二人で三々九度を交わし、私も強い意志で夫を信じ敬う心を持つと誓いました。翌日からお酒は週末だけの楽しみに嗜むようになった夫に、私は真心を込めてお酌をします。そんなお蔭さまの気持ちで生活していると動悸や腰痛が軽くなり、心が病気を作っていたのだと痛感しました。今後も夫の真心に応えられるよう精進して参ります。



齋藤全弘先生が霊界入りされる

前相談役の齋藤全弘先生が、8月3日に霊界入りされた。昭和12年3月10日生まれ、享年84歳。

齋藤先生は昭和32年に入会され、同39年に本部に奉職。当時、御霊地にて活躍されていた井口ふみ氏などから教育薫陶を受け、昭和56年4月から御霊地管理部長として多端にして複雑多岐にわたる御霊地業務を担う傍ら、同58年4月からは本部理事として活躍。平成4年7

月からは本部経理部長として財務を担当し、同11年4月からは常任理事、人事委員の重責を果たした。同19年からは相談役となり、また同24年に高齢功労賞を授与された。

また神職の資格を持たれていた齋藤先生は、造詣の深い神道の知識を生かされ、御霊地や本部にて行われるさまざまな行事の式次第や祝詞類などの原案作り、さらに訃報の際の弔辞などの文面の製作などを手広く手掛けられた。実務においては、几帳面です丁寧な仕事ぶりで知られ、その篤実な姿勢は後進の職員一同にとっての良き手本であった。

スポットライト

地域の安全を守り続け

東北第2教区 福島富岡支部

猪狩 富行さん(65歳)

猪狩富行福島富岡支部長が4月29日、春の叙勲において、長年にわたる消防団活動の功績が認められ「瑞宝双光章」を受章された。

猪狩さんは、昭和51年に20歳の時から入団し、以来44年間、消防団員を務め、そのうち9年間に副団長、4年間に団長として、さらには東日本大震災などの苦難を乗り越え、地域住民の安全、安心を守り続けてきた。

猪狩さんは「天皇陛下から叙勲を頂けることは大変有り難く、勿体ない。これからもう少しでも人様のお役にたてるように努力していきたい」と熱く語られた。



第179回秋季大祭について

参加される方は、体調に十分留意してお出かけください。当日、体調のすぐれない方は参加をお控えくださいますようお願い致します。改めて、以下のご協力をお願い申し上げます。

大祭日程と注意事項のご案内

- 日 程：10月9日(土) 大祭式典
10月10日(日) 大祭本祭式典
- 開式時刻：正午(両日とも)
- 検温開始：午前9時30分
- 参加される方は、お山の外周3カ所の検温所の内いずれかで必ず検温を行い、受付を済ませてください。
- 検温所にて、手の消毒、マスク着用、リボンの確認を実施します。
- 次の方は入場できません。
 - ・体温が37.5度以上の熱がある方
 - ・リボンのない方
 - ・マスクを着用していない方
- 全席椅子席
 - ・検温を済まされた方以外は椅子席には座れません。
 - ・椅子席のご利用は午前9時30分からです。
 - ・三密を避けるため椅子は移動しないでください。
 - ・ゴザ・イス(短足)の貸し出しはいたしません。
- 御霊地諸施設の開場・開館時刻
 - ・御霊地道場、会員休憩所：午前7時から
- 直参および代参記念品
 - ・大祭受付にて支部の代表者にお渡しします。
- 飲食の販売について
 - ・中止いたします。水分補給の飲み物をご持参ください。



昨年の秋季大祭・萬霊大供養の様子(ライブ配信映像より)

スマートフォンやパソコン・タブレットから秋季大祭を視聴できます!



解脱会ホームページから六次大祭ライブ配信の視聴や新しい情報を見ることができます。スマートフォンなら公式LINEの登録でHP更新情報が受け取れます。

- スマートフォンの場合：iPhoneならカメラアプリ、その他はQRコードリーダーアプリで右の画にピンを合わせリンクをクリック。
- パソコンの場合：ブラウザで「解脱会ホームページ」を検索してクリック。



ホームページアドレス <http://www.gedatsukai.org>

解脱金剛73年祭について

●日時：11月4日（木）正午 ●場所：京都・御寺泉涌寺

本年の御年祭は、新型コロナウイルス感染防止対策のため以下の通りとなります。ご理解とご協力をお願い致します。

■参加人数

・650人に制限させていただきます。

■受付について

・入場受付開始は9:30です。
・大門前にて検温及びリボン（参加章）を確認します。

■直参・代参感謝金およびお給仕料の受付について

・御寺泉涌寺への感謝金を除く全ての感謝金・お給仕料は、大門前に設置した受付にてお捧げください。
※ 金剛宝塔において感謝金の受付は行いません。
※ 御寺泉涌寺への感謝金は、霊明殿参拝の際にお捧げください。

■お供物について

・検温後、支部の代表者のみ受付にて「参加報告書」と引き換えに直参及び代参感謝分のお供物をお渡しします。



72年祭舍利殿での御法要の様子

※ 例年のように、各個人にお供物をお渡し致しません。

■会場について

・全て椅子席です。（自由席）
・お弁当・お土産品など売店の出店はありませぬ。
・行事の前後に臨時送迎バス（乗車無料）を運行します。
※ 時間：10時から14時頃（予定）
※ 区間：京都駅八条口から泉涌寺大門
・当日は泉涌寺への自家用車の乗り入れはできません。各自で駐車場の手配をお願い致します。

お問い合わせ：解脱会総務部 TEL:03-3353-2191

10月度研修のお知らせ

第164回健康学園コース

今回の健康学園は東京圏域の教区健康指導担当員研修を兼ねて実施します。

日時：10月23日（土）／24日（日）＜1日ずつ開催＞
10:00～15:45（受付：9:30～）

会場：御霊地・解脱研修センター

対象：①会員とその家族 ②東京圏域の教区健康指導担当員
研修費：2人1組で申し込み。1人3,000円（2人6,000円）

※ 当該地区の教区健康指導担当員は研修費免除。
（但し両日参加の場合は1日のみ免除）

※ 実習の都合上、ご家族やご親族、または支部同士でお申し込みください（教区健康指導担当員も同様）

定員：1日に付き上限24組（48名）※ 希望日が定員を超えた場合、変更をお願いする場合があります。



申込締切：9月24日（金）

※ 両日に参加する場合は、申込書は参加日ごとに1通ずつ提出してください。

お問い合わせ：解脱会教育部 健康指導・研修係
TEL：03-3353-3667（教育部直通）
048-593-0190（御霊地健康指導室）
FAX：03-3353-3708（教務局共通）

奉賛会設立50年記念映像が 本会ホームページから 視聴できます

7月1日、解脱金剛奉賛会設立50年を記念して開催された報恩日行事の各直轄道場の記念講話と50年の歩みをまとめた映像が本会ホームページで視聴できます。「会員専用ページ」から以下のボタンをクリックしてご覧ください。

解脱金剛奉賛会

設立50年記念映像

7月1日報恩日記念講話集

供養桶のご案内



- 大（左）：直径42cm 高さ21cm：39,000円（税込）
防水加工済み。受注生産となり製作に一ヶ月程度かかります。
- 中（中央）：直径36cm 高さ21cm：33,000円（税込）
防水加工済み。受注生産となり製作に一ヶ月程度かかります。
- 小（右）：直径33cm 高さ11cm：8,500円（税込）
ミニ供養塔に適しています。防水加工済み。

お問い合わせ：解脱会事業部 TEL：03-3353-2191
E-mail:soumubu@gedatsu.or.jp